

最新市場調査資料

2024年版

自動車部品の納入マップの変化と現状分析

総合技研株式会社

I . エンジン部品

1. シリンダーヘッド	1
1. 数量市場規模推移	1
2. シェア推移（変化）	1
3. 各自動車メーカーにおける購入先の変化	2
4. 当該自動車部品における技術の変化と今後の方向性	3
(以下共通項目)	
2. シリンダーヘッドカバー	4
3. シリンダーヘッドガスケット	8
4. シリンダーブロック	12
5. エンジンA s s y	15
6. ピストン	18
7. ピストンリング	22
8. ピストンピン	25
9. シリンダーライナー	28
10. コネクティングロッド	32
11. クランクシャフト（鋳造品）	35
12. クランクシャフト（鍛造品）	37
13. エンジンメタル	41
14. カムシャフト	44
15. フライホイール	47
16. タイミングベルトカバー	50
17. タイミングチェーンカバー	53
18. インテークマニホールド	56
19. エキゾーストマニホールド	60
20. エンジンバルブ	65
21. バルブスプリング	69
22. バルブシート	72
23. バルブガイド	76
24. ロッカーアーム	79
25. オイルフィルター	83
26. オイルクーラー	86
27. オイルポンプ	89
28. オイルパン	93
29. 電動フューエルポンプ	97
30. D P F（ディーゼル・パティキュレート・フィルター）	100
31. 燃料タンク	102
32. インジェクター	106
33. スロットルボディ	112
34. E G Rクーラー	115
35. エアインテークホース（エアクリーナーホース）	118

36.	フューエルチューブ	1 2 1
37.	防振ゴム	1 2 4
38.	アクセルペダル	1 2 8
39.	コモンレール式燃料噴射装置	1 3 2
40.	フューエルフィルター (ガソリン用)	1 3 6
41.	フューエルフィルター (ディーゼル用)	1 3 8
42.	エアクリナー	1 4 1
43.	ウォーターポンプ	1 4 5
44.	ラジエーター	1 4 9
45.	サーモスタット	1 5 2
46.	マフラー	1 5 5
47.	タイミングベルト	1 5 8
48.	タイミングチェーン	1 6 0
49.	ターボチャージャー	1 6 5
50.	スーパーチャージャー	1 7 0
51.	インタークーラー	1 7 2
52.	補機ベルト	1 7 5

II. 電気, 電装部品

53.	スパークプラグ	1 8 0
54.	グロープラグ	1 8 3
55.	イグニッションコイル	1 8 6
56.	バッテリー	1 8 9
57.	スターター	1 9 3
58.	オルタネーター	1 9 7
59.	コンビネーションスイッチ	2 0 2
60.	パワーウィンドスイッチ	2 0 5
61.	ホーン	2 0 8
62.	ヘッドランプ	2 1 1
63.	HIDヘッドランプ	2 1 5
64.	リヤコンビネーションランプ	2 1 9
65.	ハイマウントストップランプ	2 2 3
66.	ワイヤーハーネス	2 2 7
67.	メーター	2 3 2
68.	ワイパーA s s y	2 3 6
69.	ワイパーブレード	2 4 0
70.	ウィンドウォッシャー	2 4 3
71.	リレー	2 4 6
72.	カーエアコン	2 4 9
73.	O ₂ センサー	2 5 3
74.	エンジンコントロールユニット	2 5 6
75.	ABS (ECU・HU)	2 5 9

76. EPSコントローラー	263
77. エアバッグ用ECU	267
78. コーナー&バックソナー (ECU)	271
79. パワーウィンドモーター	274
80. HEV用バッテリー	277

III. 駆動, 伝動部品

81. MT	280
82. AT	283
83. CVT	287
84. シンクロナイザリング	291
85. クラッチ	295
86. クラッチマスターシリンダー	298
87. クラッチレリーズシリンダー	301
88. クラッチフェーシング	304
89. クラッチペダル	307
90. チェンジレバー (MTレバー)	310
91. レバー (AT、CVT)	313
92. ステアリングホイール	316
93. ステアリングコラム	319
94. ステアリングジョイント	322
95. ステアリングロック	325
96. 油圧式パワーステアリング	328
97. 電動パワーステアリング	332
98. ラックアシスト式EPS	336
99. デュアルピニオンアシスト式EPS	338
100. コラムアシスト式EPS	340
101. パワーステアリングポンプ	343
102. パワーステアリングホース	346
103. プロペラシャフト	349
104. ドライブシャフト Assy	353
105. スチールホイール	356
106. アルミホイール	359
107. コントロールケーブル	363
108. ビスカスカップリング	366
109. トランスファー	368

IV. 懸架, 制動部品

110. ショックアブソーバー	371
111. スタビライザー	376
112. ブレーキペダル	379
113. ブレーキチューブ	382
114. ブレーキホース	385
115. ブレーキブースター	388

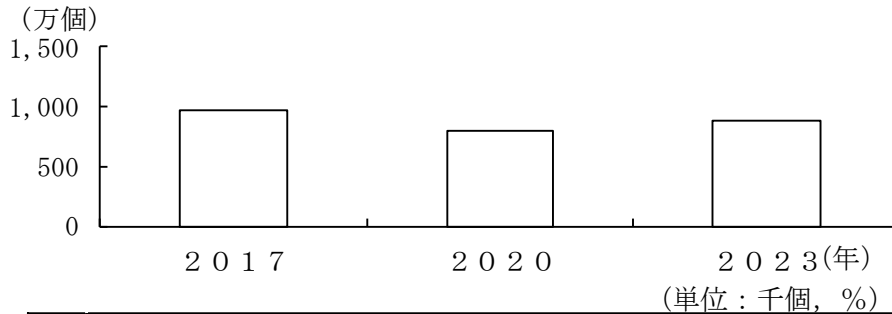
1 1 6.	ブレーキホイールシリンダー	3 9 2
1 1 7.	ディスクブレーキキャリパー	3 9 5
1 1 8.	ディスクパッド	4 0 0
1 1 9.	ディスクローター	4 0 4
1 2 0.	ブレーキシュー	4 0 8
1 2 1.	ブレーキライニング	4 1 2
1 2 2.	ブレーキドラム	4 1 5
1 2 3.	パーキングブレーキレバー	4 1 8

V. 車体部品

1 2 4.	ラジエーターグリル	4 2 2
1 2 5.	ウィンドガラス	4 2 6
1 2 6.	ウィンドレギュレーター	4 3 1
1 2 7.	インナーハンドル	4 3 4
1 2 8.	アウターハンドル	4 3 7
1 2 9.	ドアヒンジ	4 4 1
1 3 0.	ドアトリム	4 4 4
1 3 1.	ドアロック (フロント, リヤ, スライド)	4 4 8
1 3 2.	バックドアロック	4 5 1
1 3 3.	キーセット	4 5 4
1 3 4.	ドアウェザーストリップ	4 5 6
1 3 5.	ガラスランウェザーストリップ	4 5 9
1 3 6.	インストルメントパネル	4 6 2
1 3 7.	グローブボックス	4 6 5
1 3 8.	シート	4 6 8
1 3 9.	パワースライドドア	4 7 2
1 4 0.	パワーバックドア	4 7 5
1 4 1.	ヘッドレスト	4 7 7
1 4 2.	シートベルト	4 8 0
1 4 3.	サンバイザー	4 8 3
1 4 4.	成形天井 (ヘッドライニング)	4 8 6
1 4 5.	サイドミラー	4 9 0
1 4 6.	ルームミラー	4 9 5
1 4 7.	サンルーフ	4 9 9
1 4 8.	マーク	5 0 2
1 4 9.	フードロック	5 0 4
1 5 0.	トランクロック	5 0 6

18. インテークマニホールド

1. 数量市場規模推移



項目	年		
	2017	2020	2023
数量	9,627	8,035	8,908
伸長率	100.0	83.5	92.5

- ・インテークマニホールドの市場規模推移は上記のとおりとなっており、国内の生産台数に比例の市場となっている。
- ・また、2023年における金額ベースでの市場規模は266億円となっている。
- ・なお、単価については幅があるものの（形状、大きさにより幅があるものの）、おおよそ軽自動車用インマニのアルミ製で1,000～3,000円/個、2～3リッタークラスのアルミ製で4,000～5,000円/個、マグネシウム製は5,000～6,000円/個、樹脂製はアルミ製よりも2～3割安くなっている。（アルミ製の場合、アルミの使用量、形状の複雑さ、数量などにより単価は変わって来る。）トラック用はアルミ製が主に採用されており、乗用車用よりも高く、5,000～10,000円/個となっている。大型のものは1万円を超えるケースもある。

2. シェア推移（変化）

(単位: %)

部品メーカー	年		
	2017	2020	2023
内製	5	3	3
アイシン	18	20	20
ダイキョーニシカワ	16	18	16
トヨタ紡織 (トヨタ紡織九州)	7	11	13
マーレジャパン	13	10	12
広島アルミニウム工業	10	9	9
東京濾器	6	7	6
ミクニ	5	5	5
日立Astemo (旧ケーヒン)	5	5	4
愛三工業	2	3	3
その他	13	9	9
合計	100	100	100

- ・トヨタ紡織のシェアが2020年の11%から2023年には13%に上昇している。トヨタ自動車九州のレクサスブランド車への樹脂製インテークマニホールドの納入や、SUBARUのレヴォーグへの樹脂製インテークマニホールドの納入が要因と考えられる。

三菱(三菱ふそう)

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
マーレジャパン	58%	55%	55%
ダイキョーシカワ	—	10%	10%
ナカキン	13%	10%	10%
旭テック	12%	10%	10%
海外メーカー	17%	15%	15%

いすゞ

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
美濃工業栃木 (旧フルチュウ)	75%	75%	75%
アイシン	25%	25%	25%

スズキ

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
ミクニ	45%	45%	45%
東京濾器	35%	35%	35%
マーレジャパン	10%	10%	10%
愛三工業	5%	8%	8%
旭テック	2%	2%	2%
碧海工機	3%	—	—

ダイハツ

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
ダイキョーシカワ	100%	100%	100%

SUBARU

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
トヨタ紡織	53%	63%	77%
東京濾器	25%	20%	13%
ダイキョーシカワ	20%	15%	8%
杉谷金属工業	2%	2%	2%

三菱自動車のインテークマニホールドは、樹脂化の進展により、マーレジャパンの納入比率が高くなっている。

いすゞにおけるインテークマニホールドの納入比率は左記のとおりと推定される。

スズキにおけるインテークマニホールドの納入比率変化は左記のとおりと推定される。

ミクニの納入比率が高くなっており、アルミから樹脂への移行が主な要因と考えられる。

碧海工機では、スズキにアルミ製インテークマニホールドを納入しているものの、KDの海外用が中心となっている。国内生産車両向けに関しては、ほぼ100%樹脂製のため、ほとんど納入していない。

ダイハツのインテークマニホールドは、ダイキョーシカワ100%となっている。樹脂化の進展が主な要因と考えられる。

SUBARUのインテークマニホールドは、樹脂化の進展により、トヨタ紡織の納入比率が高くなっている。

SUBARUでは、2009年5月にレガシィを全面改良しているが、トヨタ紡織では、レガシィの樹脂製インテークマニホールドを受注、納入を開始している。

また、トヨタ紡織では、SUBARUが2020年10月発表の新型レヴォーグの1.8L直噴ターボエンジン(CB18型エンジン)に樹脂製インテークマニホールドを納入している。なお、SUBARUでは、2020年10月一部改良のフォレスター及び2021年10月7日に発表の新型レガシィアウトバックにもCB18型エンジンを採用している。加えて、2023年10月発表のレヴォーグレイバックにもCB18型エンジンを採用している。

3. 各自動車メーカーにおける購入先の変化

トヨタ

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
村上開明堂	70%	72%	75%
ジェンテックス	—	22%	19%
市光工業	10%	—	—
東海理化	20%	6%	2%
その他 (海外メーカーなど)	—	—	4%

- ・トヨタのルームミラーは、村上開明堂の納入比率が高くなっている。
- ・カムリ、プリウス、ノア、ヴォクシー、ヤリス、ヤリスクロスなどの主力車種への納入が要因と考えられる。
- ・ジェンテックスのシェアが約20%となっており、トヨタのレクサスLS、トヨタ車の上位機種にデジタルインナーミラーを納入している。

日産

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
市光工業	80%	80%	—
村上開明堂	—	10%	25%
パナソニック	—	—	15%
その他 (海外メーカーなど)	20%	10%	60%

- ・村上開明堂では、2020年12月フルモデルチェンジのノートにルームミラーを納入している。
- ・パナソニックでは、2022年7月にフルモデルチェンジの新型エクストレイル、2022年11月にフルモデルチェンジの新型セレナにインテリジェントルームミラーを納入している。

ホンダ

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
村上開明堂	70%	75%	55%
ミネベアアクセスソリューションズ (旧ホンダロック)	10%	10%	30%
その他 (海外メーカーなど)	20%	15%	15%

- ・村上開明堂では、ホンダのフィット、フリードなどにルームミラーを納入している。
- ・ミネベアアクセスソリューションズでは、ホンダのN-BOX、N-VAN、ステップワゴンなどにルームミラーを納入している。2023年時点でホンダのルームミラーの全量の約3割を担当している。

マツダ

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
村上開明堂	5%	—	—
東陽工業	5%	—	—
その他 (海外メーカーなど)	90%	100%	100%

- ・マツダのルームミラーは、海外メーカーの納入比率が高くなっている。

三菱(三菱ふそう)

部品メーカー	2017年	2020年	2023年
村上開明堂	75%	82%	85%
市光工業	10%	12%	—
東海電装	14%	5%	5%
大東プレス工業	1%	1%	1%
その他 (海外メーカーなど)	—	—	9%

- ・三菱(三菱ふそう)のルームミラーは、村上開明堂の納入比率が高くなっている。村上開明堂では、三菱自動車のRVR、アウトランダーにルームミラーを納入している。
- ・東海電装では、三菱自動車の主に軽自動車にルームミラーを納入している。

4. ルームミラーにおける技術の変化と今後の方向性

- ・ルームミラーにおける技術の変化と今後の方向性として、電子ミラーの採用が進んでいく方向となっている。
- ・パナソニック株式会社オートモーティブ社では、2020年8月26日、日産自動車株式会社との共同開発により、大幅な画質の高精細化を実現し、夜間の視認性や後続車のLEDランプによるフリッカー現象を抑制するなど、ドライバーの安全運転に貢献する高性能な電子ミラー（インテリジェントルームミラー）を開発したと発表している。本開発品は、日産自動車株式会社の第4世代電子ミラーとして、新型コンパクトSUV『KICKS』（日本市場向け：2020年6月30日発売、タイ市場向け：2020年7月発売）に採用されている。2メガピクセルカメラ、高解像度ディスプレイの採用と独自の映像処理技術により、高精細な映像と夜間視認性の向上を実現。更にデザイン性に優れたフレームレスミラーを採用している。なお、日本向けキックスは、タイ生産の逆輸入車となっている。また、パナソニックでは、日産自動車は2022年7月にフルモデルチェンジの新型エクストレイルにインテリジェントルームミラーを納入している。新型エクストレイルでは、インテリジェントルームミラーがGグレードに標準装備、Xグレードにメーカーオプションでの設定となっている。また、パナソニックでは、日産が2022年11月にフルモデルチェンジのセレナにインテリジェントルームミラーを納入している。パナソニックがセレナe-POWERに納入のインテリジェントルームミラーは、ドライブレコーダー連動インテリジェントルームミラーとなっている。
- ・日産自動車では、キャラバンにもインテリジェントルームミラーを標準もしくはメーカーオプションで設定している。キャラバンのインテリジェントルームミラーと、セレナやエクストレイルに搭載されているインテリジェントルームミラーは、基本性能、操作性は同一となっている。

禁 無 断 転 載

2024年版
自動車部品の納入マップの変化と現状分析

価 格：148,500円（税込）

発刊日：2024年10月18日

発刊者：総合技研株式会社

本 社：〒450-0003

名古屋市中村区名駅南一丁目28番19号
名南クリヤマビル

TEL (052) 565-0935(代)

E-MAIL aam53300@nyc.odn.ne.jp